

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102186		
法人名	有限会社 エ・アロウ福富		
事業所名	有限会社 エ・アロウ福富		
所在地	岐阜市福富迎田72番地		
自己評価作成日	平成25年10月15日	評価結果市町村受理日	平成26年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102186-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102186-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年11月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな田園地帯に位置し、居室はもちろん廊下、食堂、特に浴室は檜風呂でゆったり入浴してもらっています。のんびり、穏やかに生活できる環境が整っていると自負しています。食が一番と考え、地元の食材にこだわって手作りを心がけています。3カ月毎の家族会・季節ごとの外出行事など多くのご家族に参加頂き、ご理解とご協力をいただいています。又、隣の駐車場を借りており、車いす利用者様も安全に散歩してもらっています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景が広がる自然豊かな場所に位置し、地域は古い慣習の残る部分と、新しい住居の部分が一つになっている。事業所開設当初から、地域との関わりには苦労が伺えるが、現在は地域自治会にも加入し、地域の恒例行事にも事業所がなくてはならない場所になっている。また家族会・利用者会議などを定期的実施し、家族と利用者の絆を何よりも大切にしている。これらの事業所の努力の結果、利用者同士、家族同士の絆も強くなり、家族会はもちろん、事業所行事には沢山の家族参加が得られている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は廊下や食堂など数か所に掲示しており、朝の申し送り時、全員で唱和している。月1回の職員会議でも、運営方針・運営理念を唱和し利用者本位の立場と尊厳の保持一人ひとりに寄り添った介護を心がけている。	理念は毎朝の申し送り時に唱和し、その時に、具体的な事例をもとに、理念の裏に隠された大切なことを考えるような時間を設けている。また、月1回の職員会議の中で理念の実践に向け、職員が共通した理解が得られるよう努力を重ねている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。自治会の行事(清掃活動・防災訓練・夏祭りなど)に参加している。9月の清掃活動には、利用者も一緒に参加、又資源回収にも協力している。	古い慣習の残る地域に開設された事業所である。ホームの努力でやっと6年前より自治会に加入出来、自治会の清掃活動、防災訓練に参加し、地域慣例の夏祭りはホームの駐車場を提供し、積極的な活動が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りは、恒例の自治会行事となっており、毎年会場提供と模擬店を出店している。タコ焼きが好評で是非にといいことで、たこ焼き・お好み焼き・けいちゃん・ポンハゼなど出店している。入居者も楽しみに食べ歩き・ビンゴなどに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域関係者・家族代表の参加による運営推進会議を2か月ごとに開催している。事業内容、利用状況、行事などを報告し評価を受けるとともに、意見交換の場を設け事業運営に反映させている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、行政、地域包括支援センター、自治会を含む地域関係者、家族代表の参加により行われ、事業内容、利用状況、行事等を報告し、情報交換の場として有効に活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には行政、包括センター、地域関係者に参加してもらっている。会議以外にも介護保険制度の情報や助言等指導を受けている。	行政との関係も良好で、運営推進会議の参加や、市に出向くことにより指導・助言を得る機会も多く、今回開設後一定期間の事業所に対し、屋根の葺き替え、水周りの改修工事等行政からのアドバイスにより、助成を受けることが出来、実施に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員がどのような行為が身体拘束にあたるのかを理解し、また言葉による拘束もないように言葉使いにも気を付けている。家族と事前に話し合いを持ち身体拘束のないケアを心がけている。	積極的に職員は研修に参加し、他職員へ研修内容を伝達し、身体拘束のないケアに努めている。過去に夜間活動性の高い利用者に対し、四点柵、センサー装置を使用した事例はあるが、現在は拘束は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止にちうては、身体拘束と共に職員会議で取り上げ資料も配布した。日常生活においても、小さな抑制の積み重ねが身体的、心理的虐待につながることを認識し見過ごされないよう注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	NPO法人きずなの会に入会されている方がおられます。後見人制度の必要な方には、紹介もしている。きずなの会より、資料提供を受けたり、情報交換も必要に応じて協力を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面談を行い、家族、利用者本人に対し不安・疑問などうかがい、契約・解約の際には十分な説明を行っている。契約者・重要事項説明書は、2部作成し家族、施設かく1部ずつ持ち、理解・納得を得ている。加算については家族会で説明し書状にて合意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1日に利用者会議を開いている。利用者本人から意見を聞き、又3カ月毎の家族会においても家族より意見・要望等毀棄参考にしながら、運営に反映している。毎月の請求書・領収書送付の際、毎月の行事カレンダーも同封している。	毎月利用者会議を開催し、利用者が話しやすい雰囲気作りを心がけ、利用者の思いを聞き出す努力を重ねている。また、3ヶ月に一度開催される家族会議は出席者も多く、家族間での忌憚のない意見交換が行われ、介護に関する共通の理解など有効な時間となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第1木曜日、職員会議をひらいており、意見・提案など聞き、話し合っている。親睦会も年数回行っており、その場でいろいろ話が聞ける機会があり運営に反映している。	毎月の職員会議は、職員が話しやすい場となるよう、管理者は日ごろから職員間の雰囲気作りに努力し、働きやすい職場作りを行うなどしている。代表者からは、職員として家族をはじめ、人との関わり方や仕事を通して得るものの大切さなど、経験豊富な先輩の話を参考に、日々の業務につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の勤務に対する取り組みや姿勢などを評価し、各自がやりがいや向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格のない職員には資格取得を勧めている。研修については、経験や習熟度を考慮し、今年6名受講してもらっている。職員会議において研修報告の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会合や研修・地域の在宅ケア会議に参加し、情報交換している。グループのあかねとも行事などで行き来している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けたら、まず家族と共に本人に面接をし、話を聞いてホームの見学をしていたら、説明をし本人・家族が共に納得されてサービスを開始している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも面接を行い、施設と十分な話し合いの場を設け、質問・要望など聞きながら説明をし不安・疑問のないよう努めている。どんな些細なことでも、遠慮なく話してもらえるような環境作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネをはじめ職場の職員を交えて本人と家族が何を望み何に重きを置いているかを話し合い、それに答えられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、声掛け、日常生活はもちろん食事や、出来る事は一緒に行い、家族のような信頼関係を気づき理解しあえるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や行事に参加頂いたり、面会の際、日常の記録をみてもらい近況報告をし、また、外出の機会を持ってもらったり、相談を受けたり、一緒に支えていける関係を作れるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人の要望に応じてなじみの場へ気軽に行き来できるように支援している。知人や友人の面会には気兼ねなく再訪してもらえるように声掛けなど行っている。	友人や知人の面会も多く、利用者からは「お菓子を買ってきて」と家でもてなす様な心遣いが聞かれ、職員もその気持ちを大切に、楽しい時間を過ごしてもらえる様、また気安く来れる雰囲気作りを工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・お茶の時間はもちろん、レクリエーションや、行事などの催しには、全員に声掛けし、一人部屋に居る事のないように関わりが持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日頃より、いつでも来訪していただけるよう信頼関係を築き、連絡が取れる体制が出来ている。転居先の施設にも、情報提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月1日、利用者会議を行っており、どんな暮らしがしたいのかなど本人の話を聞きながら、それに添えるように努めている。日常のコミュニケーションからも一人一人の思いの把握に努め、家族にも面会時などに話を聞いている。	利用者会議は毎月1日に各階で行われている。利用者からは行きたい所や食べたい物等の要望が主である。先月、1階の利用者は長良公園に紅葉見物に出かけたり、2階の利用者は岐阜公園に菊人形を見学し、昼食は要望の多い寿司や中華を食べるなど、利用者の要望に答えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らし方や、生活環境・ADLの状態など資料や家族の話をベースに、日常の会話、コミュニケーションの中からさらなる把握に努め職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り・見守り・各々のケース記録などの中から職員一人一人ADLや状態変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議において、数名づつカンファレンスを行いケアプランに反映させている。本人や家族の意見も取り入れて介護計画を作成している。利用者の状態変化や、家族の要望に応じて臨機応変の対応している。	介護計画は、日ごろの利用者の状況や、家族からの情報など丁寧に聞き取ったものを職員会議で検討し、意見を取り入れた計画書を作成している。また、利用者の状態に応じ、柔軟に見直し新たなプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個別に記入し、朝夕の申し送りで職員間での情報の共有を図っている。生活の中で変化があれば、その都度報告し対応している。記録の書き方の講習を受け、その報告をして記録に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	天気の良い日には、本人の状況に応じて散歩に行ったり、近所の花を見に出かけたり、買い物に同行したり、外出行事として喫茶店に行くなどの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会の招待者は、地元地域の行事に参加させてもらって交流が出来かけている。地域のコミュニティセンターを年数回ホームの行事などに利用させてもらっている。コミセンで行われる催し物にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所に協力医院があり、月2回の往診を受け利用者の状態を説明したり、家族とも連絡し合ったりしている。通院時は、管理者・ケアマネ・職員同行し説明を受けている。他に、週1回協力歯科医院の往診があり、利用者の半数近くが受診している。	かかりつけ医は利用者、家族の要望で、従来のかかりつけ医の利用者が4、5名あり、受診は家族に同行してもらう事を原則としている。家族とのつながりを大切に支援しているため、東京から毎月受診の為に来訪する家族もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用している。医療については、医師の助言を活用情報を共有しながら健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院と密に情報交換を行い、早期に退院できるように努めている。本人や家族との面会を多く持ち、連絡をとりあって入退院時の状況を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とかかりつけ医師と連絡を密にとるようにしている。家族会でも、代表から事業所の重度化や終末期にむけた方針や出来る事の限界を説明している。	ホームとして看取り体制はとっていないが、最後まで口から食べる楽しみを維持出来る様、食形態や介護方法の工夫、また危険性についても家族と十分に話し合った上で、本人の希望、家族の協力、かかりつけ医、訪問看護師の連携で、看取りの経験も数例ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、緊急連絡網やマニュアルをホーム内に掲示している。応急手当や初期対応の訓練は、検討中である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練時1回は地元の消防署に来て頂き全職員・利用者対象に、助言・指導を受け参加している。地域の避難訓練にも職員・利用者が参加し、交流を深め協力体制を築きつつある。運営推進会議で自治会長より災害時の対応の話が出たことがある。	年2回の避難訓練を実施し、1回は消防署立会いもあり指導・助言をもらっている。自治会からは運営推進会議を通し、地域として手伝えることはないかとの声掛けももらっている。	自治会からの申し出は、ホームが地域の中で存在しているという表れであり、この機会にホームとして地域に望むことを具体的に示すことで、より一層地域とのつながりが深くなることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室対応であり、夏場は出入りに暖簾をかけ、プライバシーの保護に努めている。トイレの介助時、扉を閉めたりカーテンを使用したり、声掛けのしかたなど言葉使いも意識して日頃より配慮している。	食事時や排泄誘導の声掛けも、耳元で行われ十分な配慮が伺われる。利用者個々の生活履歴等を職員は十分把握し、適切な態度・言葉でケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の言葉や表情を確認しながら、本人の思いや希望を引き出せるようさりげなく声掛けしている。お茶や飲み物など選択できるように自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共に過ごせる時間を大切に、一人一人のペースに合わせた暮らしが出来るよう支援している。居室で過ごす時間も大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師さんに来て頂きカットしてもらっている。清潔で着やすく本人(家族)の好みの衣類を着てもらっている。入浴後の髭剃り、爪切りなど実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元の食材を多く使用し、手作りにしている。食事は職員も同じものを一緒に摂り、誕生会など本人の好みを聞き食事を作っている。出来るだけ自分で食事がとれるよう見守り・声掛けなど支援している。自立度にあわせて下膳などしてもらっている。	食事は1階と2階で献立は違っているが、手作りで、職員も利用者と一緒に食事を楽しむことが出来る様、配慮している。茶碗、汁椀、湯呑み、箸は馴染みの物を使い、家庭での食事場面の様である。また、行事食用の弁当箱や外食の機会も設け、食べる事が楽しいものになる工夫がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じた食事形態にし、量・質を考えカロリーにも配慮している。水分不足にならないようこまめに水分を摂ってもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三度の食後、歯磨きの声掛けをして、義歯のケアやうがいなど利用者の状態に合わせた口腔ケアを行っている。歯科往診による口腔ケアも希望者が受けている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表があり、各々の排泄間隔の把握に努め、排泄間隔を見ながらトイレ誘導や、声掛け介助をして失敗が少なくなるよう支援している。	一人ひとりの排泄のリズムを職員が把握し、個別の支援が行われている。排泄支援の羞恥心を十分理解し、プライバシーに配慮した実践が行われている。また、昼間と夜間の排泄方法を検討し、汚れたパッドを処理するフタ付バケツを、目立たなく置くなど、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のひとは、主治医より薬を処方してもらい服用してもらっているが、消化の良い食事や食物繊維の多い食事の工夫や、体を動かすこととして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を実施し、入浴は順送りになるようにしている。木造で湯船も檜でゆったり入浴できる造りになっている。利用者の状態に応じ、入浴日以外でもシャワー浴している。一人ずつゆっくり入ってもらえるよう入浴日の午前中に実施したが、定着しなかった。	週3回の入浴を基本とし、木材を基調とした浴室で浴槽は檜である。湯は活水化したものが使われ、無臭で保温効果もあり、入浴が楽しいものになるような配慮がある。また、利用者の希望により、2-3人で入浴し、温泉気分が味わえている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室対応であり、自由に自分らしく気兼ねなく過ごすことが出来ている。起床・就寝時間午睡も本人のペースを尊重している。天気の良い日の布団干し・週1回のシーツ交換を実施し気持ち良く休んでもらえるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の説明書をよく読み理解して、服薬の支援は一人一人仕分けし、間違いのないよう2人以上で確認し、服薬後は個人記録へ記入しチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の方には、生活力を活かした家事のお手伝いや、男性・女性を問わず趣味や経験に基づいた本人の状態にあった出来る事を支援している。毎月1回音楽療法があり、利用者・職員共に楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、本人の状況に応じて車椅子の利用者も含め散歩に出かけ、近所の方と挨拶したり花をもらうなど交流がある。外出行事も年に数回あり家族の協力を得て、全員で出かけている。喫茶店へモーニングにも出かけている。	近隣への散歩や喫茶モーニングなど気軽に外出が行われ、日常の買い物も、職員は利用者へ声掛けして一緒に出かけている。四季折々の行事も計画され、家族の協力を得て実践されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ホームで行っている。家族の面会時などに、出納帳にて預り金の確認をして了解をもらっている。金銭管理が出来る人は少数で、買い物・理容代など支払いを自分で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の要望があれば、取次など支援している。息子さんに手紙を書かれる方があり封筒に入れ出している。個人あてに来た手紙などは、本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・床・壁・浴室など木材がふんだんに使われており、天気の良い日にはバルコニーや窓から外が眺められ、季節感が感じられる。廊下には、季節の花や利用者が職員と作り上げた作品や、写真など展示している。	ホームは木材がふんだんに使われ、全体に暖かい雰囲気が感じられ落ち着いている。廊下は広く、居室前のスペースは椅子が置かれ、利用者が自由にくつろいだり、洗濯物たたみなど、生活の空間として利用されている。壁には利用者の作品、笑顔の写真が貼られ、ホームは家庭の延長である姿勢が確立されている。	食堂でくつろぐ利用者が多いが、食後に自室に戻る人や、廊下に設置された休憩スペースを利用し一人の時間を楽しむ人もある。寒くなる時季は室温管理にも配慮し、居心地の良い空間作りが望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が、自由に集まれる場所が数か所あり、テレビ・カラオケなどもある。冬は、コタツを入れ暖かく過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室和室使用で、はき出し窓があり開放的で見晴らしが良い造りになっている。季節感も感じられる。今まで本人が使用してきた布団や家具・インテリア・テレビなど持ってきてもらい居心地良く過ごせるよう心掛けている。	居室は全室畳で、利用者にとって居心地の良い部屋となっている。広い窓からは、遠くの間々も見渡せる。使い慣れた筆筒や家族の写真、手作品などが思い思いに装飾されており、利用者の個性豊かな居室になっている。整理整頓、清掃も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に部屋番号と表札をつけ、又目印になるようなものを設置したりして間違えないようにしている。トイレもわかるように工夫している。		